

教員氏名：崎浜 聡（保育学科・専攻／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

所属は保育学科であり、主に「保育内容総論」「幼稚園教育実習」など幼稚園教諭の養成に携わっている。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

【実務経験と教育観】

私は、幼稚園教諭を3年間務めた経験を活かして保育の理論と実践を教授している。保育者養成の理念は、学生の保育的資質を出発点に実践技法や知識を体験的に学び、学生自身が自身の理想の保育者像に近づく学びを実感できることである。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

講義科目では、可能な限り視覚教材を多用し、難しい概念をわかりやすく説明している。

演習科目では、実際に知識や技術を体験的に学ぶ方法を導入している。

実習科目では、事前指導で素材・教材研究を行う。事後指導では、実習園からの評価表と実習生の自己評価表を踏まえて、保育者としての課題を把握する評価面談を実施している。

全体の科目において、「教えない教育」を実践している。これは、保育学生が「教わる側から教える側への転換」を促すことを目標に、学生が主体的に考えて授業の構築することを求める。よって、学生が何もしなければ教育の成果は得られないが、学生にとっては授業を任されている以上「なぜでなかったのか」という授業の主体者として根本的な問いが突きつけられると思うが、現行ではそこまでできなかった学生はいなかった。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

授業の後に、受講した学生の感想をお願いしている。その内容を授業の振り返りとして、次の授業で全体に共有している。その結果、「教えない教育」の重要性や教える側に立つことの難しさなど、言葉の意味として「学生主体の授業」は理解できても、実際にやってみるとグループワークの難しさや受け身になっていることへの甘さなどに気付くことができ

たとの「評価」を頂いた。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標 「教えない教育」（学生主体の教育）について、丁寧に説明し、ほとんどの学生が主体的な学習態度で授業に参加できるようにする。

「理論と実践の循環方式」による授業を展開し、学んだ理論を実習や演習で実践し、振り返りからさらに、質を向上させていく実践力を高める教育を行う。

中期的な目標 ①「学び合う集団づくりの推進」：本学科の特徴は、学年人数が 150 名程度と多く、少人数教育が難しい。そのため、教員主導による学びの場の形成ではなく、学生が主体的に学びの集団をつくり、学生が相互に学び合う大人数教育を構築することを目指す。

②「教材研究室の開設」：現行では、学生が素材・教材研究する場や仕組みがなく、個別に任されているが、多くの学生は、YouTube などの動画配信サイトを参考に指導案を作成している実態がある。動画を見ればできる、という楽観的な姿勢なので、一度も見本を制作せずに指導案を書き上げるため、保育現場（実態）とのズレが大きくなると考えられる。これを改善するには、素材や道具を用意し、学生が素材・教材研究ができる場所を設置することが必要だと考える。

③「幼稚園教育実習の ICT 化の推進」：現行では、日誌や指導案は手書きであるが、実習園との連絡・指導・内諾を含めてクラウド上で行うシステムの導入によって実習生の「負担軽減」と「ICT 化」を目指している。現在は、短大の実習委員会でワーキンググループをつくり進めている。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

- 1 担当科目のシラバス
- 2 授業資料のサンプル
- 3 授業資料の動画 URL
- 4 デジタル指導案のサンプル

（2025 年 9 月 10 日現在）